

# 防災あいずみ

平成 28 年 10 月 15 日発行 第 14 号

発行元：藍住町総務課危機管理室

電話 637-3111

## 西小学校で防災・避難訓練を開催しました！

8月28日、藍住西小学校で防災・避難訓練を開催しました。

当日は心配していた天候にも恵まれ、訓練には、地域住民のほか関係者ら280人が参加しました。

訓練参加者は自宅から会場(西小学校)までを徒歩または自転車で移動し、危険箇所や所要時間を確認しました。また会場内では消火訓練やロープワーク、給水体験、心肺蘇生法体験、防災クイズなど様々な体験コーナーに参加しました。

この防災・避難訓練は平成24年度から小中学校ごとに年2か所ずつ開催しており、西小学校では2度目の開催です。

参加者アンケートでは、防災・避難訓練の満足度等は高い結果となっています。しかし、すべての開催会場において初回より住民参加者数が減少しています。

本県においては南海トラフ巨大地震の発生が非常に懸念されています。大規模な地震が発生すれば普段利用している道路も家屋やブロック塀の倒壊、道路の損壊などで通行できなくなってしまうかもしれません。もしもに備えて防災・避難訓練に参加しましょう。



### ○防災・避難訓練住民参加者数の現状

開催日	会場	住民参加者数	前回比	
平成24年	9月2日	北小学校	225	—
	11月18日	東中学校	225	—
平成25年	5月26日	東小学校	331	—
	8月18日	西小学校	204	—
平成26年	6月8日	南小学校	349	—
	8月24日	藍住中学校	303	—
平成27年	6月7日	北小学校	199	▲26
	8月23日	東中学校	123	▲102
平成28年	5月29日	東小学校	215	▲116
	8月28日	西小学校	183	▲21



## 木造住宅の耐震化を考えてみませんか？

平成 28 年熊本地震が発生してから 6 か月が経過しました。この地震によりお亡くなりになった方は 50 名、地震の影響で体調を崩すなどした「震災関連死」された方は 43 名、6 月の豪雨による「二次災害死」された方は 5 名で、計 98 名もの尊い命が犠牲となりました。

また、一連の地震で被害が確認された県内の住宅は約 17 万棟にも上り、このうち、「全壊」は 29 の市町村で合わせて 8,176 棟、「半壊」は 2 万 9,463 棟、「一部破損」は 13 万 873 棟にも上ります。

地震は、人命・財産・その他多くのものを奪ってしまいます。私たちは、地震の発生を無くすことはできませんが、被害を最小限にすることは可能です。

住民の皆さん一人ひとりが今一度、減災・防災について考えてみませんか？

### (古い木造住宅の約 97%は倒壊する可能性があります!)

平成 28 年 3 月末までの県内 15,953 戸の耐震診断の結果



- 倒壊する可能性がある住宅  
2,270 戸 (14.2 %)
- 倒壊する可能性が高い住宅  
13,169 戸 (82.5 %)



県内では、これまでの耐震診断の結果、倒壊の可能性がある（評点 1.0 未満）と判定された住宅は、全体の 97%と十分な耐震性を満たしていません。またその後、耐震化工事を実施された方は約 1 割しかいません。その原因として、「費用が高額である」「時間と手間がかかる」等の理由があげられています。

#### ○耐震診断とは？

耐震診断は、大規模な地震に対してどの程度の安全性があるか判定するものです。

耐震診断員が、地盤や基礎、壁の強さや配置、劣化の程度などについて現地調査を行い、住宅が持つ耐震性を数値（構造評点）で表します。既に耐震診断を実施された方も、次ページの表を参考に診断結果を見直し、耐震化に取り組みましょう。

構造評点	判定
1.5 以上	倒壊しない
1.0 以上 1.5 未満	一応倒壊しない
0.7 以上 1.0 未満	倒壊する可能性がある
0.7 未満	倒壊する可能性が高い



## 災害用グッズを作ってみましょう！

災害はいつやってくるか、わかりません。普段から万全の備えができていることが望ましいですが、実際には備える前に災害が発生することもあり得ます。9月10日（土）に藍住町体育センターで行われた「防災GOウォーキング」では新聞紙でスリッパを作る体験が実施されましたが、他にも日常の身近なものでいざというときに少しでも役に立つものを紹介します。

もしもの時に活用しましょう。

### ○ツナ缶ランプ

**【用意するもの】** ティッシュ1枚、ツナ缶1個（オイル漬けのもの、中身は全て入ったままでOK）、缶に穴を開ける道具（キリ、穴開け器付の缶切り等）

- 【作成手順】**
- 1 ティッシュをこより状にする
  - 2 こより状にしたティッシュをツナ缶の高さの2.5倍ほどの長さにする
  - 3 缶の底に2で作成したランプの芯が刺さる穴を開ける
  - 4 穴にティッシュで作成した芯を頭が1cmになるように刺し、油が染み込むまで待ち点火する

- 【注意点、その他】**
- ・火災の原因となってしまう可能性もあるため、大地震直後など近くにガレキや燃えやすいものがある場合は使用しない。
  - ・使用後のツナ缶の中身は問題なく食べられます。
  - ・ランプとして使えるのはおよそ30～45分ほどです。
  - ・綿紐がある場合はティッシュの代わりに芯として使えます。

### ○ダンボール製簡易水タンク

**【用意するもの】** ダンボール、大きなビニール袋

**【作成手順】** ダンボールにビニール袋を入れる

**【注意点、その他】** ・持ち運びに台車などがあれば便利です。



比較的簡単に作れるものを紹介しましたが、他にもペットボトルと懐中電灯で簡易ランタン、キッチンペーパーで簡易マスク、ポリ袋で合羽など身近なもので役に立つものを作ることができます。詳しい作り方は引用元を参照ください。

参考・引用元 備える.jp <http://sonaeru.jp/>

## 非常持ち出し袋を準備しましょう！

迅速な避難を行うため、また、避難所で避難生活を行う際に困らないようにするために、最小限必要なものが揃っているか見直しましょう。備えることは平常時にしかできず、災害は待つはくれません。

### ○非常用持出袋

緊急時に必要なものを入れておき、迅速に避難できるようにします。

- 避難行動時に両手が塞がらないようにするために、大きめのリュックサックを用意しましょう。
- 自身の身を守り、生命活動を維持するために必要なものを最優先としましょう。
- 実際に避難訓練の際などに背負って移動し、無理なく避難行動がとれるかの確認もしましょう。重すぎると感じる場合は、命に直接関わるものであるかどうかを判断基準に優先度を決めましょう。
- 飲料水、食料品については特に、災害発生直後の避難時に全て持ち出そうとすると重量が過大になってしまうので、持ち運べる量をしっかりと見極めておきましょう。また、持出用とは別に、災害発生後ライフライン復旧までに時間を要する場合を想定し、収納しやすく取り出しやすい場所に備蓄しておきましょう。備蓄さえしてあれば、災害で不便こそあれども餓死することはありません。

#### 【最低限必要なもの】

飲料水・非常食（初期持出用は避難行動の妨げにならないよう重量に気をつけて1日分、備蓄7日分）、貴重品〔現金（公衆電話用、自販機用に硬貨も）、通帳、印鑑〕、救急用品（医薬品、絆創膏等）、懐中電灯、携帯ラジオ、電池、マッチ、衛生用品（ティッシュ・トイレトペーパー、ウェットティッシュ等）、ヘルメット、靴、マスク、雨具、防寒具、衣類



## 津波避難訓練に参加しましょう！

勝瑞地区を対象に津波避難訓練を開催します。

東小学校が指定避難所となっている方や近隣にお住まいの方はぜひ参加してください。

訓練の詳細は後日、町ホームページ、エーアイテレビ等で皆さんにお知らせする予定です。

- 日時 平成28年11月6日（日）  
午前9時～11時
- 会場 藍住東小学校

